

目標の設定及び達成に向けた考え方について(区作成)

【鶴見区】(受託者等:大阪市コミュニティ協会)

		区の考え方等
1 地域課題・ニーズ等の状況について	<p>これまでの支援により、地活協の意義や役割については一定の理解を得ているが、地域によっては担い手一人ひとりの理解が不十分な地域がある。</p> <p>一部の担い手に負担が集中しているなど各地活協ごとに弱みがそれぞれ異なっている。特に組織運営に関すること(議決、会計、広報)や幅広い住民の地域活動への参加促進に弱みを持つ地域が多い。</p> <p>防災をはじめとした全地域が共通的に行っている取組みについては、地活協同士が連携し情報共有できる場を設け、取組みの拡大を促進する必要がある。</p>	
2 当事業によりめざす状態	全ての地活協で、幅広い世代の住民が地域活動に参加し担い手となりうるような魅力的で公正な活動を継続している。	<p>【現在の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成状況:概ね8割程度達成 ・説明:「状況4 地域活動協議会の運営状況」の552項目(ステージ2, 3を含む46項目×12地域)のうち448項目で◎または○となっているため。
3 当事業の目標		
(1) 中長期の目標	担い手が地活協の役割や目的について理解している。	<p>【現在の状況】</p> <p>一定の理解を得ることができているが、役員の変更などにより、一部の担い手については理解が不十分な場合がある。</p>
	会計の透明性確保をはじめとする民主的で開かれた組織運営を区役所や中間支援組織に頼らず自律的・継続的に行っている。	<p>【現在の状況】</p> <p>会計担当者の設置、運営委員会での議決など、開かれた組織運営に関するスキルは向上していきおり、区役所や中間支援組織の支援を必要とする機会が減っている地域については支援を減らしている。</p>
	地活協同士の連携・情報共有をすすめ、防災等の取組み拡大につなげている。	<p>【現在の状況】</p> <p>一昨年度より「ツルラボ～鶴見区地域活動研究会～」を開催し、今年度は、「福祉」「広報」をテーマに4回実施。各地域の担い手が集まって意見交換・情報共有できる場を提供した。</p>
(2) 平成31年度目標		
ア 「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」	形成済の全地域活動協議会について、ステージ1の項目を全て達成の他、ステージ2の各項目のうち、4項目を達成	<p>【現在の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※◎を達成とみなした場合 達成:1地域 未達成:11地域 ※○を達成とみなした場合 達成:8地域 未達成:4地域 <p>「地域公共人材の活用」を除くと12地域達成</p>

		区の考え方等	
イ	利用者アンケート調査		
	(ア) 自律的な地域運営	各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じる割合 65%以上	【現在の状況】 皆さんの地域において、自律的な地域運営に取り組めるようになってきていると思いますか。(問4) 70.30%(①そう思う 21.87% + ②ややそう思う 48.43% ※無回答を除く)
	(イ) 中間支援組織の活用	まちづくりセンター等の支援を受けた団体が、支援に満足している割合 85%以上	【現在の状況】 まちづくりセンター等の支援について満足していますか。(問1) 86.55%(①そう思う 29.41% + ②ややそう思う 57.14% ※無回答を除く)
4	地域活動協議会の状況についての分析 上記2・3の【現在の状況】及び評価資料等を踏まえ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動協議会ごとの強みと弱みが顕著になってきているが、組織運営等において一定の理解は得ることができた。今後も各地域の課題・ニーズに合わせた支援が不可欠である。 ・会計、広報、議決や幅広い住民の地域活動への参加促進については弱みを持っている地域活動協議会が多く、重点を置いた支援を行っている。 	
5	当事業による支援の方針	<p>地域活動協議会への理解や組織運営等については、地域により状況が異なっており課題やニーズに応じた支援が必要不可欠であるため、年度当初に策定した支援計画に基づき、各地活協の状況に応じた支援を実施する。</p> <p>継続安定的に自律運営が行われている分野については、支援を減らしていく。</p> <p>地活協同士の連携や情報共有については、「ツルラボ」を開催し事例共有や討論を重ねる。また、年度末に「つるばた会議」を開催し、地域活動にまつわる多様な情報共有の場とする。</p>	
6	目標達成に向けた戦略	<p>地域活動協議会の運営支援について、年度当初に設定した支援計画に基づく支援を行ったことで、自律度の向上が見られていることから、引き続き、地域によって自律運営が難しい分野に重点を置いて支援を行う。</p> <p>地域活動協議会同士の連携・情報共有を促進するため、「ツルラボ」「つるばた会議」などワークショップを引き続き開催し、類似した課題や事業に対して他地域の事例を聞く機会を設ける。また、参加者を広く募集することで、新たな担い手の発掘を図る。</p>	